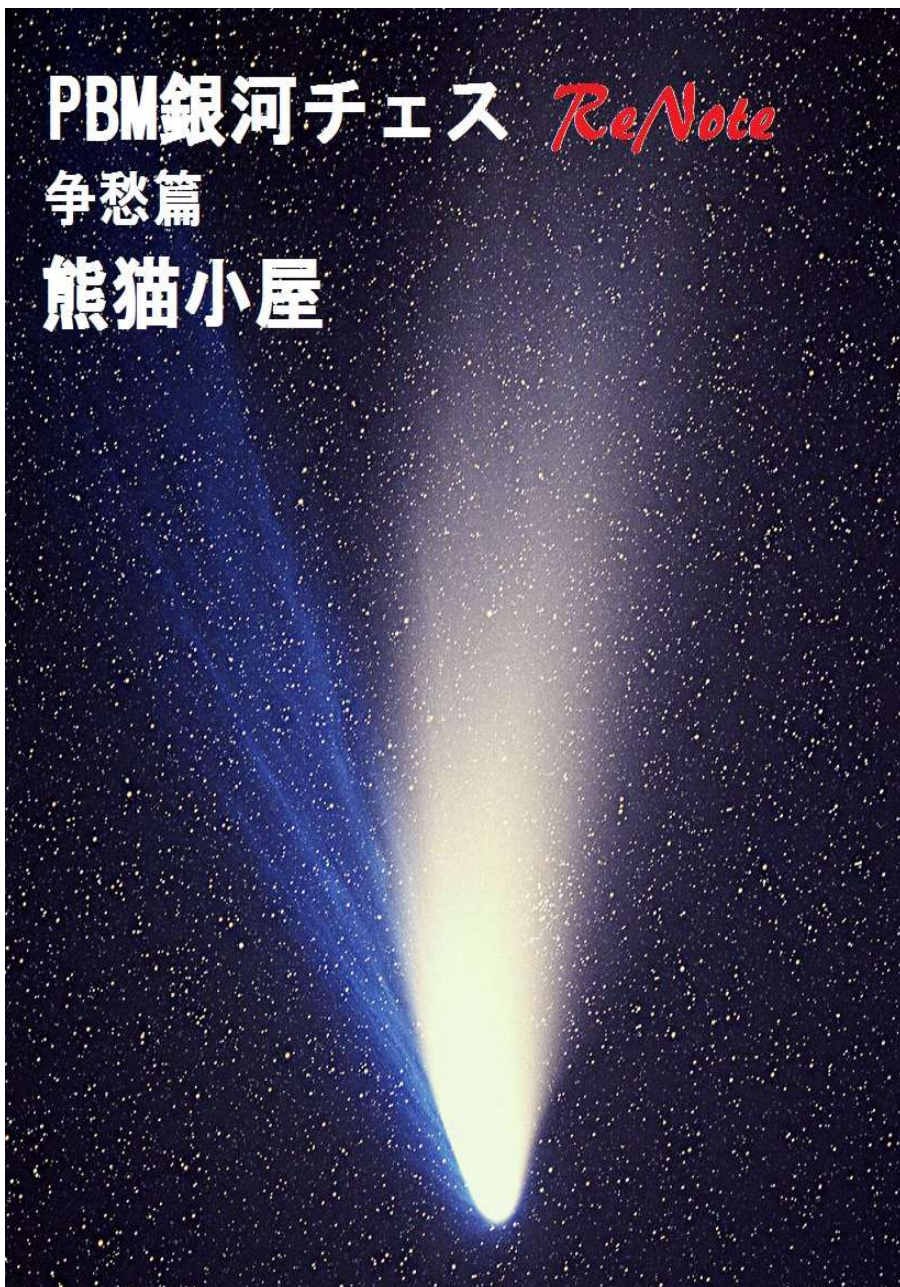


争愁篇

PBM銀河チェス *ReNote*

争愁篇

熊猫小屋



# 銀河チェス ReNote

## 目次

1.ゲーム内年表 ...P2

2.マスター講評...P9

3.同盟提督 FILE

4.帝国提督 FILE

## 1.ゲーム内年表

### 1.PBM 銀河チェス年表

○内数字はターン数

487.5.14	796.5.14	イゼルローン要塞陥落
<u>487.6</u> ①	<u>796.6.3</u>	フォーク、倒れる 同盟軍帝国領への限定攻勢実施を決定
487.6		ロイエンタール、亡命
487.6		ミュッケンベルガー、焦土戦術に出る
	796.7	アムリッツァを同盟軍が奪取
<u>487.9</u> ②		ラインハルト、リッテンハイム令嬢と婚約 シュライヒャー、メルカッツ令嬢と結婚
		帝国軍、反撃開始 アムリッツァを帝国軍が奪回
		シトレ、統合作戦本部長辞任、後任はロボス
	796.10	自由惑星同盟総選挙にて、 トリューニヒト派・和平派の連立派が勝利 トリューニヒト議長、ジェシカ国防委員長体勢 ジェシカ、大規模軍縮を提案
487.10		フリードリヒ四世崩御 エルフィン・ヨーゼフ二世即位 ブラウンシュバイク、艦隊の動員を拒否
<u>487.12</u> ③		ミュッケンベルガー、宇宙艦隊司令長官解任 ラインハルトが司令長官に就任 <u>&lt;アムリッツァ事変&gt;</u> メルカッツ、ソネンベルクによって暗殺 ケンプ、ミッターマイヤーがラインハルトから 離反し、アムリッツァにて、帝国内戦開始 離反部隊はフォルゲン方面へ後退

487.12		アルメントフベールにて、フレーゲル・ランズベルクが決起
488.1		ヴァルテンブルクにてシュライヒャーが決起
		リッテンハイム星域にガイエスブルク要塞転移 <u>&lt;リッテンハイム攻防戦&gt;</u> ブラウヒッチ中将の艦隊と要塞が交戦
	797.1	ハイネセンにて、右翼団体の行動が過激化 同盟軍、首都戒厳令発動 グリーンヒル大将が失脚
	797.1	エル・ファシルにてクーデター 第11艦隊ルグランジュ中将、政府要人を拘束 第2、第3、第13艦隊により鎮圧 <u>&lt;エル・ファシルのクーデター&gt;</u> クーデター派のルグランジュ、ストークス、デッシュが死亡 トリューニヒト評議委員長死亡。
488.2		キフォイザーへ威力偵察に出た ワーレン艦隊がガルミッシュ要塞と交戦 <u>&lt;キフォイザー攻防戦&gt;</u>
	797.2	ヤン、ジェシカにプロポーズ ジェシカ、評議委員を辞任 同盟最高評議会議長にレベロを選任 ロボス戒厳令を解除、国防委員長兼任開始
488.2		帝都オーディンへブラウンシュバイク派が侵攻 <u>&lt;オーディン攻防戦&gt;</u> シュターデン、投降を拒否。 二波にわたる攻撃を撃退する
488.2		マリーンドルフ伯、帝国内戦の停戦案を提示

488.2	797.2	フェザーンにて同盟＝帝国間の停戦が議論
488.3 ④		リップシュタット協約が成立し帝国内戦が終結 公女エリザベート皇帝即位、銀河帝国初の女帝
488.3	797.3	同盟＝帝国間の停戦交渉決裂
488.4	797.4	同盟軍、アムリッツァへ再侵攻 <u>&lt;第1次アムリッツァ会戦&gt;</u> ビッテンフェルト、ヤンの前に敗走 ソネンベルク、ベルゲングリューン戦死 キルヒアイス負傷
	797.5	ヤン・ウェンリー、ジェシカと結婚
		フレーゲル、ブラウンシュバイク公継嗣となる
488.6 ⑤		キルヒアイス、アンネローゼにプロポーズ クナップシュタイン、女帝に見初められる
		帝国、貴族への課税、劣悪遺伝子排除法停止を 双勅制の下で承認
	797.6	ドーソン、ジェシカ軍縮案を改定する
	797.7	イゼルローン要塞、アムリッツァへ移動
488.8	797.8	同盟軍ボーデンへ侵攻 <u>&lt;第1次ボーデン会戦&gt;</u> 帝国軍損害多数を出すも同盟軍の侵攻を撃退
488.9 ⑥	797.9	帝国軍、防衛ラインの引き下げを開始 <u>&lt;第2次ボーデン会戦（追撃戦）&gt;</u> ボーデンにてヤン・ビュコックがラインハルト・ワーレンを捕捉追撃し、損害を与える
488.9	797.9	シトレ率いる同盟軍、フォルゲンへ侵攻 <u>&lt;第1次フォルゲン会戦&gt;</u> 帝国軍が侵攻を撃退

488.10	797.10	ミュッケンベルガー客員提督率いる独立遊撃隊 リュウゲンへ侵攻し、占領する
488.11	797.11	フェザーン、同盟艦隊の表敬訪問を受け入れる
488.11		マリア・マグダレーネ、フェザーンを離脱
	797.12	アップルトン、フレデリカに出会う
489.1 ⑦		ラインハルト・サビーネの婚儀 キルヒアイス・アンネローゼの婚儀 クナップシュタインがブーケを獲得する
489.1		ブラウンシュバイク、軍律違反容疑で逮捕
489.1	798.1	同盟軍、フォルゲンへ侵攻する <u>＜第2次フォルゲン会戦＞</u> ガルミッシュ要塞へ突入するも、要塞司令オフ レッサーの逆襲で押し戻され、同盟は撤退。 シェーンコップ戦死
489.1	798.1	独立遊撃隊がシャーヘンを攻略
489.2	798.2	同盟軍、ワールシュタットへ侵攻する <u>＜ワールシュタット会戦＞</u> 中央パエッタ艦隊がラインハルトの猛攻を前に 潰走し、同盟軍は全面的敗走に至る アーメド、チェン戦死 パエッタ負傷
489.2	798.2	オフレッサーガルミッシュ要塞破棄を決断 同盟軍、フォルゲンへ侵攻する。 <u>＜第3次フォルゲン会戦＞</u> 援軍にきたキルヒアイス艦隊ともども帝国敗走 ジェイド、ビューロー戦死、ケスラー負傷 同盟軍、フォルゲンを占領する。
489.2	798.2	ルビンスキー、同盟との軍事的な結びつきを警 戒し、フェザーンの独立をかかげる団体により 悪化する政治状況を前に雲隠れをする。

489.3 ⑧	798.3	シトレ、正式に宇宙艦隊司令長官を辞任 後任はヤン・ウェンリー
489.3		フレーゲル、ブラウンシュバイク公爵家継承
489.3		帝国軍、フォルゲンへの挟撃反抗を企図する
	798.3	同盟軍、機動防御による各個撃破を企図する
489.3	798.3	同盟軍、キフォイザーへ侵攻する <u>&lt;キフォイザー会戦&gt;</u> 帝国軍は敗退、バイエルライン戦死
	798.3	同盟軍、キフォイザーにてシュターデンと邂逅
	798.3	ルビンスキー、同盟へ亡命 ボルテック、「自治の回復」を掲げて フェザーン自治領主に就任
	798.4	同盟軍主力、キフォイザーを後にしてフォルゲンへ移動
489.5	798.5	帝国軍、フォルゲンへ侵攻する <u>&lt;第4次フォルゲン会戦&gt;</u> 同盟軍が帝国軍を撃退する
489.5		帝国軍、キフォイザーを奪回する
489.6 ⑨	798.6	同盟軍、フォルゲンから主力を転身させ、ワールシュタットの奪取を企図する
	798.6	ロボス、作戦本部長職をパエッタに引き継ぐ。
	798.6	ドーソン、軍内の綱紀粛正と対工作調査を開始
489.6	798.6	帝国軍、同盟の機動に先んじてフォルゲン侵攻 <u>&lt;第5次フォルゲン会戦&gt;</u> 帝国は6個艦隊2波で同盟軍を挟撃に成功。同盟軍を敗走させ、帝国はフォルゲンを奪還。 ロイエンタール、アラルコン戦死

489.6	798.6	帝国軍、同時にボーデンへと侵攻 <u>&lt;第3次ボーデン会戦&gt;</u> 同盟軍撤退、帝国はボーデンを奪還。
	798.7	独立遊撃隊、アムリッツァへ帰還する
489.7		帝国、リュージェンを奪還
	798.8	ロボス元帥は、フォルゲン、ボーデンでの敗戦を受け、文民政府より、国防委員長職の返納を要請される
489.8	798.8	シュターデン特使、フェザーン着任 クブルスリー同盟高等弁務官と和平交渉を打診
489.9 ⑩	798.9	ロボスが国防委員長を辞任、シャノン国防委員長へ継承し、文民による軍政が復活する
	798.9	パエッタが作戦本部長職を辞任、後任はドーン ン
489.9		新ブラウンシュバイク公ジーモン、リッテンハイム侯爵養子、エルフリーデと結婚
489.10	798.10	帝国軍、アムリッツァに三波に分かれて侵攻 <u>&lt;第2次アムリッツァ会戦（決戦）&gt;</u> 同盟要塞の前に、帝国軍は大損害を出すもの要塞機能の停止に成功。同盟軍は撤退を決心
489.11		帝国軍、放棄後のアムリッツァへ進み、奪還
489.11		エリザベート、帝冠を上皇に返上
489.12 ⑪	798.12	前ブラウンシュバイク公オットー、釈放される
489.12		シュライヒャー、軍務省にエリザベート廃位の抗議文を奏上、自グループの形成を開始
489.12		シュライヒャー、監視の中で不審死。 小メルカッツ刑死、シュトックハウゼン拘束



489.12		帝国軍、イゼルローン回廊へ侵攻 <u>&lt;第8次イゼルローン会戦&gt;</u> 同盟軍が帝国軍を撃退し、要塞再建を開始
490.1		帝国内で不審な集団が輸送艦隊乗っ取りを企図
	799.2	同盟、外宇宙開拓公団を設置する
490.2		帝国領内で同盟工作員の狩りだしを実施
490.3 ⑫	799.3	イゼルローン回廊にて、直接の講話交渉 ジーモン・ブラウンシュバイク、エーレンベルクとシャノン、ロボスによる交渉開始
		フェザーン中立化問題で交渉難航
		アップルトン、妻が六つ子を授かったことを公表
		オーベルシュタイン、イゼルローンに追加交渉のため来訪、キルシュシュタインに出会う
		シュトックハウゼン刑死
490.4.23	799.4.23	イゼルローンの和約が成立
490.5	799.5	フェザーンの政治混乱加速、 フェザーン自衛軍がシュターデンを頭目としてクーデターで臨時政府樹立し、沈静化
490.5		モルト憲兵総監、引退を表明
490.5		キルヒアイス、教育総監着任
	799.5	同盟主導の外宇宙移民計画、実働本格化

## 2.マスターターン講評

### 第6ターン

#### <第2次ボーデン会戦（追撃戦）>

第5ターンに同盟3元帥のアルファスタックでのボーデン攻防で受けた損害を重く受け止めて、帝国側が戦線の縮小を行った場面です。ここで帝国側のプロットずれが発生したため、マスター処理で戦場設定を行いました。今から考えるとこのあたりで離脱時の処理を作っておくべきでした。

#### <第1次フォルゲン会戦>

ここから数次にわたる流血の中央街道戦線の開幕。要塞の存在確認と艦隊防衛の状態確認のための威力偵察。主攻撃軸である北回りに対する助攻撃の位置づけですが、結局あげた戦果は全体としてこちらのほうが大きくなり、元帥不足の帝国の戦略を大きく拘束することに成功。同盟の戦略的意図の勝利でしょう。

第6ターン以降、帝国はパッシブに防衛戦闘に新型機雷で補正がついて来ます。これがなければ戦線が崩壊した戦場は少なくないです。この意味でも、余っていた科学技術点へ道筋をつけたシュターデンは帝国を救っています。

### 第7ターン

このターンから **Ifcon** システムによる同盟側の猛威が発生します。全ての艦隊の統率がヤン・ロイエンタールに合わせることになるので、同盟艦隊の弱点であった平均的に低い高級将校の統率が大幅に改善します。複数ターンにわたるアクション渋々で通った技術開発で、これとのバランスをマスターが強く意識するようになります。

### <第2次フォルゲン会戦>

### <第3次フォルゲン会戦>

キルヒアイス艦隊の速度が同盟主力艦隊より遅いという状態が生んだ各個分断に成功した消耗戦となりました。要塞放棄によるオフレッサーの救済は、少しマスター裁量を利かせすぎたきらいがあったとは思いますが、このターンはブラウンシュバイクの追放があったターンにあたり、オフレッサーが生き残ることは波乱要因でもあり、陣営間の損得は微妙かと考えております。

### <ワールシュタット会戦>

Ifcon システムの弱点である一艦隊が混乱状態に陥ったら、すべての艦隊が混乱状態に陥るという副作用が作用した戦闘です。帝国最大の暴力たるラインハルト&シュライヒャーのコンビが運よく、比較的防御が薄いパエッタの前面に陣形有利で座ってしまったことで、一斉混乱からの壊滅的な敗走が発生しました。

## 第8ターン

### <キフォイザー会戦>

シュターデンがアクションで交渉アクションをかけており、帝国上層部の撤収方針と食い違っていたため、そのアクション意図を実現するために、事故で居残りとなりました。

同盟軍主力がファーレンハイトの撤収より早いので、3個艦隊でタコ殴りにした戦闘です。全体としては、この突出によって第2フェイズでの6個艦隊によるフォルゲンへの挟撃をキャンセルすることに成功します。

このとき、小メルカッツのエントリーがアクション前であったのですが、受理の返信が遅れてしまい、マスター裁量でこの戦域に配属となりました。よって、小メルカッツは勝手に殺すわけにいかない。このマスター判断がこの会戦の結果の異質性の全てを構成しています。

#### <第4次フォルゲン会戦>

キルヒアイス艦隊の機動が、同盟軍主力より遅いことで、同盟軍はフォルゲンでの迎撃移動に成功してこれを撃退します。この時期になると元帥のアルファスタックのぶつかりあいとなるので、主力艦隊がぶつかってもなかなか決着はつかなくなります。

#### 第9ターン

#### <第5次フォルゲン会戦>A・B

前ターンで保留になっていたフォルゲンへの総攻撃がキルヒアイスにシュライヒャーをつけることで同盟軍主力を捕捉可能となり、挟撃に成功となります。挟撃ボーナス&連戦疲労&帝国幕僚ドクトリンの重ね掛けによって、同盟軍主力が壊滅的被害をうけロイエンタール、アラルコンが戦死となります。

#### <第3次ボーデン会戦>

北回り航路でのビュコック対ビットェンフェルトの戦い。同盟は指揮上限突破の技術開発を進めていましたが、ペナルティはやはり重かったようです。

ちなみに帝国側の幕僚ドクトリンも全ての将帥が元帥並みの指揮上限にならないかというクナップシュタインの提案をマスター判断で弱体化し、幕僚の人数にあわせてランダムに統率値ボーナスとした産物です。似たようなことを考えるものですが、30000隻上限を突破したいという意図が強かった同盟とは結果が異なります。

この戦闘の戦訓で死に技術となってしまったのに対して、幕僚ドクトリンはこの後も地味に効力を発揮する結果となりますが、これも Ifcon システムのシステム破壊ぶりからすると許容範囲とマスターは考えております。

技術革新でとにかく野心的にシステムを破壊しに来るのが、マスターとしては処理としては非常に頭の痛い問題でした。

## 第10ターン

### <第2次アマリツァ会戦(決戦)>A・B・C

アマリツァで9個艦隊ががっぷりぶつかりあう決戦のターン。複数フェイズの撤退処理について明確にルール付けを行っていなかったため、フォルゲンにおけるオフレッサーと同様に、要塞残し、艦隊は殿を置いて戦闘処理という形をとった判定を行いました。他の追撃戦処理では、一度戦闘処理をしたら、次のフェイズには後退しているではないかという指摘を再処理している間に正当という判断に代わり、全面的な再処理となり、ご迷惑をおかけしました。

処理については、挟撃ボーナスをはじき返すトールハンマー強いというのが印象に残っています。再処理に当たって、Q&Aで答えたところ要塞移動で要塞の防御力が0になって整備力ごと破却するのが正しかったようですが、先の処理では要塞撤退をさせていたこともあり、整備力のみ移転したという解釈処理を実施しています。

帝国ではエリザベートの退位が発生しています。軍首脳部はクナップシュタインとの結婚で寿退位させる前提で話を進めてクナップシュタインの拒否で話が止まっているという状態になっていました。この段階で女帝の地位をサポートする人は近くからいなくなっていたため、放っておくと、事態が悪化するしかないため、少女の我儘で退位という形をとりました。

## 第11ターン

### <第8次イゼルローン会戦>A・B

帝国側がイニシアチブを維持してイゼルローンへ攻勢を実施しますが、同盟の分厚い布陣によって押し返されます。艦隊数不利であったため、同盟のイニシアチブであったら、アマリツァは危機に陥っていたと思われます。

会戦の前にシュライヒャーの乱が発生しますが、軍首脳部からガチガチのマークを受けた反乱が成功するわけは元よりあるわけもないです。

それでもトリッキーにシュライヒャーが動き得たのは、上官たるミュラーの寛大なアクションがあったからですが、これを理由にミュラーのアクションに咎めが出るのも忍びなく、いったん公的には事故死という処理で、やりたかったことをリアクションとして示すという結果としました。

なおシュライヒャーは前の上官たるキルヒアイスの朱印状で艦隊乗っ取りを企てたようですが、人事異動で上官はミュラーに代えられており、人事の上でも完全に上層部に意図を外されていました。あとは、偶然近くにいたシュターデンに仕事をしてもらいました。

## 第12ターン

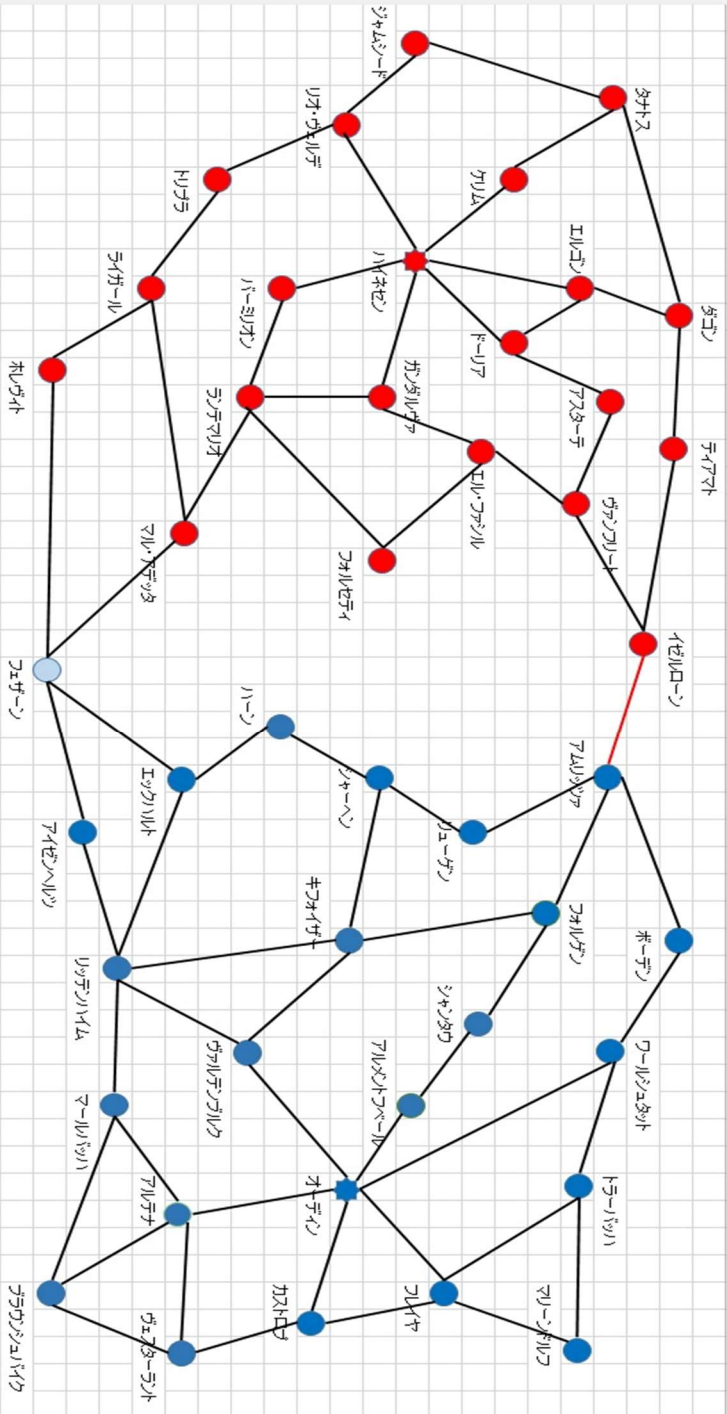
講和成立会です。全員のリアクションを書いて欲しいという要望もいただいておりますが、どうしてもこの会までにキャラクターが固まらない人も出てしまい。エピソードが形になる人をしっかり書くことでキーボードを収めるという形とさせていただきました。

フェザーンについては、このゲームで屈指の生き活きた連中がそろってしまったので、ついリッテンハイムとロボスの意図を外れたところへと話が進んでしまいました。

前にやった PBM 関ヶ原では毛利輝元と徳川秀忠で「天下分け目の磐田原」という地味すぎるクライマックスを迎えたせいもあり、補給メインの「ドーソンとシュターデンが図面で殴り合う」ようなゲームになると言ったことがありましたが、まあ割とこの二人は大活躍したので、言葉の自己実現をしてしまったかな、思うところはあります。

本ゲームを通じて、やはり、アナログ処理をする人間の限界はあったなあと深く痛感するとともに、マスターもプレイヤーも人間というのは自分に都合のよいことは忘れるが、都合の悪いことは非常に重く心に残るものであるというのは実感した次第です。

最後に拙いマスターリングにわずかでも、お付き合いいただいた全てのプレイヤーならびに暖かく見守ってくれた読者に感謝を申し上げます。



問題番号1  
帝国保身4